

ふるさとガイドおおふ

大倉桃山

〈有形文化財巡り〉



大府市地図



- ① JR 大府駅
- ② 青木塚
- ③ 延命寺
- ④ 山祇社
- ⑤ 大府観音
- ⑥ 桃山公園
- ⑦ 大倉公園

JR 大府駅

ジェイアールおおぶえき



▲旧駅舎



▲現在の大府駅

明治の初期、近代化の第一歩として政府が推し進めた政策の一つに、東京と関西を結ぶ幹線鉄道の建設があった。当初、幹線鉄道には中山道案が採用され、武豊線はこの幹線鉄道敷設工事において武豊港（知多郡武豊町）に陸揚げした建設資材の運搬用に「半田線」の名称で計画された。

明治 18 年（1885）、愛知県武豊港から中山道幹線が通る岐阜県の加納駅（現在の岐阜駅）までの仮敷設工事が始まり、明治 19 年（1886）3 月、武豊～熱田が単線で開業した。同年、幹線経路が中山道筋から東海道筋へ変更となり、既に敷設されていた武豊線と新設される東海道線をつなぐ駅として、明治 20 年（1887）に大府駅が開業した。東海道線は大府駅から東へ東へと延長され、明治 22 年（1889）に東海道線（新橋～神戸間）が全通した。

現在の駅舎は、昭和 53 年（197⁸）に旧駅舎より、やや北側へ移動し建設された。毎年夏になるとこの駅前で盛大に大府夏祭りがおこなわれ賑わっている。

青木塚

あおきづか



▲青木塚



▲神明社

現在は「神明社」となっているが、以前は「おしめさん」、「青木塚」と言っていた。言い伝えによれば、刈谷城を本拠に三河西部、知多半島北部を治める、水野信元(松平元康の伯父)に松平元康(後の徳川家康)が仕掛けた石ヶ瀬の戦いの場所と言われ、この戦いは「桶狭間の戦い」前後3回行われた。どちらの武将か分からないが、傷ついて追い詰められ、自刃をした場所と言われ、その怨念か、昔ここで大蛇が出てそれを見た人は熱を出し寝込んでしまったそうだ、白蛇も出たそうだ。自刃した武将の名前が「青木某(それがし)」と言い、ここを「青木塚」と言った。近くの住民が気の毒に思い、塚を建て供養した所で、今でも近くの方達が供養している。

石ヶ瀬の戦いは、1回目永禄元年(1558)、2回目永禄3年(1560)、3回目永禄4年(1561)の3回あったと記録されている。

延命寺 (1)

えんめいじ



▲文殊楼門



▲水野家家紋

御本尊 延命地蔵菩薩 天台宗 山号宝龍山である。

蜜蔵院（春日井市熊野町）の末寺。当寺に所蔵する「由緒取調」などによれば、盛祐上人（じょうゆうしょうにん）により鎌倉時代に開創されたようであるが、その草創年次は不詳である。

室町初期には、藤井神社の別当寺として栄え、七堂伽藍（しちどうがらん）をはじめ山内に塔頭（たっちゅう）を擁していた。中期以後には衰退したが、享祿四年（1531）比叡山より慶済が晋住して中興開山となり、昔日のごとく復興した。

天文二年（1533）7月には、後奈良天皇より「寶龍山」の勅額を賜った。二世仙慶も比叡山より来錫し、三世真慶は緒川城主水野家より出家した人であった。客殿屋根に水野家家紋、金箔の家紋がある。

■文殊楼門

天保年間に再建された文殊楼門は、熱田の宮大工喜兵衛の手によるもので、楼上には文殊菩薩が安置されている。

延命寺 (2)

えんめいじ



▲刺繍普賢菩薩像



▲勅額

■ 寺宝

刺繍普賢菩薩像(室町時代)

文殊楼門(江戸時代)

墨書大般若経(南北朝～室町時代)

勅額(室町時代)

造阿弥陀如来坐像一軀(南北朝時代)

その他多数有り

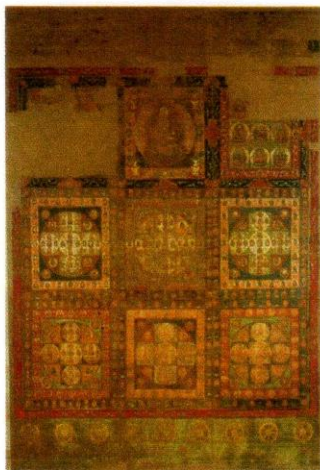
県指定文化財

市指定文化財

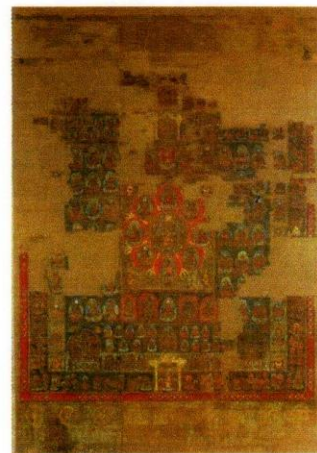
同

同

同



▲絹本両界曼荼羅 (金剛界)



▲絹本両界曼荼羅 (胎蔵界)

山祇社

やまずみしゃ



▲山祇社

大山祇命(おおやますみのみこと)、倉稻魂神(うがのみたまのかみ)を祀り、本殿右に稲荷大明神、天王社(津島社)が合祀されている。

創建は不明だが、「寛文村々覚書」(1671)山神二社とある。

享保13年(1728)の棟札(むなふだ)に「奉新建稲荷大明神」とあり、当時の祠は別々にして有ったが、嘉永2年(1849)の棟札に「奉造立大山祇命、稲荷大明神、相殿一字」と有り、このときに再建し稲荷神社を合祀したと思われる。この神社を近くの人達は、今でも「山の神さん」と言っている。

この神社は「延命寺」の支配下で明治11年(1879)「山祇社」(やまずみしゃ)と改称された。

なお、神社裏には青面金剛童子(しょうめんこんごうどうし)(庚申さま)が祀られている。

大府観音

おおぶかんのん



▲柴垣法隆師像



▲大府観音

昔、石亀土公園辺りは雑草が生い茂り田畑の収穫は悪く、住民の不幸が続き、人々があまり寄り付かず村人は困っていた。昭和29年(1954)、それを知った「柴垣法隆」和尚は自ら中心になり有志で御祈禱をし、土地をならし御堂を建て「観世音菩薩」を祀り供養したところ、住民たちの不幸が無くなり、田畑の収穫も順調に良くなったそう。それからは、この観世音菩薩は住民たちから、「観音さま」と慕われ参拝する人も増えた。

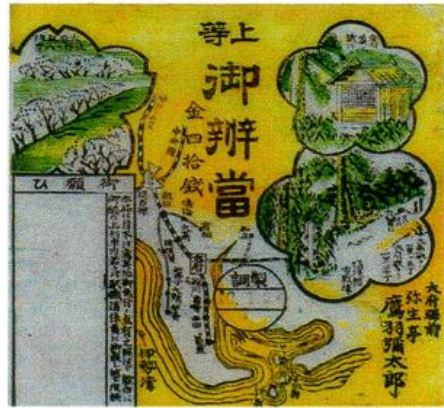
今では、この観音さまを「大府観音」と言い毎年10月には「大府観音大祭」を行っている。

言い伝えでは、桶狭間の戦時にはこの辺りに処刑場があったと言われている。

桃山公園(1) ももやまこうえん



▲ガンジ山開拓風景



▲弥生亭（駅弁）の包み紙

静かな住宅街に囲まれた小高い丘の上にある市民の広場である。大正～昭和初期にかけて、大倉和親がガンジ山（現桃山公園～大倉公園を中心とした丘陵地）で桃園の経営を行ったのが始まりで、最盛期には3、6万本の見事な桃園の丘陵地が拡がり、桃の果実は松坂屋卸売会で大好評を得ていた。桃の花が咲き乱れた情景はまさに一大絵巻で、県内外から大勢の花見客が訪れ華やかな宴が繰り広げられ、桃花観光の名所となった。このためガンジ山の地名は「桃山」と呼び名が変わった。

昭和9年～10年頃に大倉和親は、桃園から高級住宅地への転換を計り、自らの手で区画整理し、「高級園芸住宅地」と銘打ち住宅地内の道路脇には桜を植えた。その桜が桃山を桜の名所にした。

現在、250本のソメイヨシノ、1200本のツツジ、200㎡ある菖蒲池の1000株のハナショウブも見事である。

桃山公園(2) ももやまこうえん



▲風車モニュメント



▲モニュメントから眺める景色

大正～昭和初期にかけて、大倉和親は、3、6万本の桃の木を潤すため、自然風を利用した西洋揚水風車（鉄製）を設置し、灌漑用水を引いていた。この水源が井戸であり、昭和15年頃まで利用されていた。

現在は高さ17m、直径4、5m、22枚の羽を持つ風車モニュメントが設置され、この展望台から大府の町並みはもちろん、衣浦湾や御嶽山を一望することができる。

大倉公園(1) おおくらこうえん



▲茅葺門

開園時間

1月～2月 8:00～16:15

3月～4月 8:00～17:00

5月～8月 8:00～18:00

9月～10月 8:00～17:00

11月～12月 8:00～16:15

主なイベント

盆梅展(2月)つつじまつり(4月下旬)

大倉公園は、面積 1.7ha の日本の四季を優雅に楽しめる端正な日本庭園風の公園である。

明治 44 年 (1911) 輸出陶器「森村組」重役の大倉孫兵衛が陶器工場を建設しようと、御料林の払い下げを受け、現在の「大倉公園」及び「桃山公園」あたり一帯の土地を購入した。しかし工場は建設されず、孫兵衛の長男、大倉和親が大正 8 年 (1919) この地に「別荘」を建て、「大倉別荘」となり現在の「大倉公園」となった。

昭和 2 年 (1927) 夏の頃、大倉別荘に賀陽宮恒憲王(かやのみや つねのりおう)が 2～3ヶ月逗留され、名古屋騎兵 第三連隊に通っておられた。

大倉公園(2)

おおくらこうえん



▲休憩棟



▲ひょうたん池

■茅葺門（大正 10 年頃建築、昭和 59 年移築）

公園のシンボル茅葺門は大正 10 年に建てられた門で、この門をくぐると目の前には見事な日本庭園があり、椿、桜、藤、つつじ、紫陽花、紅葉など四季折々の花が咲く。また、なりひら竹、なんじゃもんじゃ（ひとつばたご）などの珍しい植物もある。

■休憩棟（大正 10 年頃建築、平成 20 年改修）

もと別荘の離れで、座敷を矩折れにして庭側に縁を廻らす。欄間など細部には数寄屋風意匠がみられる。

茅葺門・休憩棟は、国の「登録有形文化財」です。

■ひょうたん池

平成 21 年（2009）、友好都市「岩手県遠野市」から贈られた親子の河童像がある。